

森の手入れ 大切さ説く



篠田岐阜大教授 釜戸中で出前授業

瑞浪市釜戸町の釜戸
中学校で6日、岐阜大
工学部社会基盤工学科
の篠田成郎教授による
森と水との関係をテー
マにした出前授業が行
われ、参加した1年生
24人は自然環境の保護
について理解を深め
た。

授業は、岐阜信用金
庫(岐阜市)が主催す
る「小中学校向け環境
講演会」の一環で実施
された。

篠田教授は木の年輪

生徒たちに木の年輪につ
いて説明する篠田成郎教
授＝瑞浪市釜戸町、釜戸
中学校

などを示しながら、放
置された森と手入れさ
れた森との木の本数や
日の当たり方、土の湿
り気の違いを紹介。手
入れされた森では、木
の間隔が広い分、雨水
の大部分が土に吸収さ
れやすくなり、土砂災害を
起こしにくいと説明、
「上流の森林で手入れ
がされていないと、泥
水を含んだ水が多くな
り、災害や生態系に影
響する。森林を見ると
きに緑がたぐさんある
からいいと判断するの
ではなく、土や木の状
況を確認して」と生徒
に呼び掛けた。
(湯浅裕作)